

Asia Pacific Next Generation camp 参加報告書

慶應義塾大学環境情報学部 3 年

柴田 巧

私は、2003 年 02 月 20 日、21 日の間、台北にて開催された『第 3 回アジア太平洋次世代キャンプ(APNG Camp)』に参加しました。

昨年に引き続き参加いたしました。本年は日本からのアジェンダの提案もあったことも大きく、全体的にも Issue-oriented なチュートリアル、WG の進行ができたのではないかと考えております。

昨年までは、チュートリアルなどでのシニアの方々の発表に先導される会という印象で、ある意味良い授業に参加しているという受動的な態度が会の雰囲気でした。しかし、本年は WG においても NG が積極的に発表の機会を得て、かつ議論にも熱く参加する姿を見ると全体的に積極的な参加が求められる良い会の雰囲気が作れてきていると考えます。

私自身についても、今回の APNG Camp の中で昨年に比べ物にならないほどの貢献ができたと考えています。JPNIC/ng-tf の史さんが Chair を行う Asian Youth Culture WG でも、New Popular words on the Net という発表を行い、日本で加熱していた 2ch での言葉と ASCII Art を組み合わせたよく使われる言葉遣いについて紹介し、議論を促しました。また日本からの提案で組み込まれた Internet の運用・発展に直接関係する Hot issue である、国際化ドメイン名 : IDN のチュートリアルについても、講師を JPNIC / TWNIC から呼びして、Co-chair として史さんと共に進行しました。

APNG Camp in Taiwan を全体的に総括すると、まだまだ発表や議論の的になるべき、コンテンツ、内容に、将来のインターネットの運営や発展を担う NG が考えるべき問題であるのかと疑問なところもありますが、積極的な会への参加という点では多くの NG の発表があったこと、議論が盛り上がる場面が前回よりもあった点などから評価できると考えます。疑問にあげたコンテンツについても良い点はあり、もちろん日本から持ち込んだ IDN、及び Internet Governance のチュートリアルについては、APNG に新しい知識の風を送ることができました。且つ、前回と比べシニアの関わり方も変化し、NG に今の問題を伝えたり、そのヒントを与えたりと、考えるきっかけを与えてくれる立ち振る舞いが今回の Camp では見られ大きな収穫でした。特に JPNIC 松本理事の Virtual Class Room の紹介では、APNG が関われることを考えようという提案も含まれ、将来 NG がやっていったらよいことの方向性を示される良い発表でした。

以上のように、第 2 回と比べると第 3 回では、日本からの積極的な参加・発表ができる土壤ができたと考えております。これもシニアの方々のサポート及び今回 Co-Chair だった牧兼充さんの活躍が大きく、ng-tf メンバーとして感謝しています。

第 4 回については私が Co-chair に選出されましたので、今後もよりよい Camp にしてゆけたらと思います。